

環境・農水常任委員会資料 1
平成 26 年 (2014 年) 10 月 6 日
琵琶湖環境部

平成 26 年度 9 月補正予算案

主 な 事 業 概 要

琵琶湖環境部

事業名	補正予算額 (現計予算額)	説明
<p>【環境政策課】</p> <p>試験研究費 (琵琶湖環境科学研究センター)</p>	<p>6,760 (425,872)</p> <p>起 6,000</p> <p>⊖ 760</p>	<p>1 新水質実験調査船の整備 6,760</p> <p>水質モニタリングと調査研究の効率化、高度化を図るため、老朽化の著しい2隻の調査船を集約し、環境に配慮した1隻の調査船を整備する。</p> <p>323,000 → 329,760 国土交通省が定める労務単価の改定に伴う増額</p>
<p>【温暖化対策課】</p> <p>再生可能エネルギー 導入推進費</p>	<p>3,030 (428,597)</p> <p>繰 3,030</p>	<p>1 個人用既築住宅太陽光発電システム設置推進事業 3,030</p> <p>家庭部門での温室効果ガス排出量削減のため、個人用既築住宅への太陽光発電システムの導入と併せて省エネ製品を設置する者に対して支援する。</p> <p>50,310 → 53,340 特に既築住宅へのコージェネレーションシステムの導入を推進するため、補助対象の省エネ製品に当該システムを追加する。</p>

事業名	補正予算額 (現計予算額)	説明
<p>【循環社会推進課】</p> <p>産業廃棄物対策事業費</p>	<p>△ 62,000 (1,591,480)</p> <p>起 △ 55,800</p> <p>⊖ △ 6,200</p>	<p>1 最終処分場支障除去対策工 △ 62,000</p> <p>旧アール・ディエンジニアリング産業廃棄物最終処分場からの生活環境保全上の支障等除去のための対策工事を実施するとともに、既存水処理施設の管理や地下水モニタリング調査等を行う。</p> <p>1,523,637 → 1,461,637 入札執行残による減額</p>
<p>【自然環境保全課】</p> <p>自然環境保全推進費</p>	<p>43,000 (10,000)</p> <p>繰 43,000</p>	<p>1 侵略的外来水生植物徹底駆除事業 43,000</p> <p>「オオバナミズキンバイ」等の外来水生植物は、琵琶湖の生態系への悪影響などを引き起こすことが懸念されることから、オオバナミズキンバイ等の侵略的外来水生植物の徹底的な駆除を行う。</p> <p>10,000 → 53,000</p> <p>旺盛な繁殖力を有するオオバナミズキンバイは、本年6月に特定外来生物に指定されており、琵琶湖南湖において現在も生育面積が増加していることが確認されたことから、侵略的外来水生植物の拡大防止に向けて早急に徹底的な駆除を実施する。</p>

事業名	補正予算額 (現計予算額)	説明																				
<p>【流域下水道事業特別会計】</p> <p>流域下水道建設事業費</p>	<p>△ 298,316 (7,972,966)</p> <p>国 △ 155,742</p> <p>分 △ 45,085</p> <p>繰上 16</p> <p>諸 △ 52,405</p> <p>起 △ 45,100</p>	<p>1 流域下水道建設事業費 △ 298,316</p> <p>生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図るため、流域下水道建設事業を推進する。</p> <p>7,802,003 → 7,503,687</p> <p>入札執行残等による減額</p> <table border="1" data-bbox="655 813 1471 1059"> <thead> <tr> <th></th> <th>所要額A</th> <th>既決額B</th> <th>補正額A-B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>処理場</td> <td>4,549,749</td> <td>4,693,268</td> <td>△ 143,519</td> </tr> <tr> <td>管渠</td> <td>2,107,595</td> <td>2,357,095</td> <td>△ 249,500</td> </tr> <tr> <td>ポンプ場</td> <td>846,343</td> <td>751,640</td> <td>94,703</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7,503,687</td> <td>7,802,003</td> <td>△ 298,316</td> </tr> </tbody> </table>		所要額A	既決額B	補正額A-B	処理場	4,549,749	4,693,268	△ 143,519	管渠	2,107,595	2,357,095	△ 249,500	ポンプ場	846,343	751,640	94,703	計	7,503,687	7,802,003	△ 298,316
	所要額A	既決額B	補正額A-B																			
処理場	4,549,749	4,693,268	△ 143,519																			
管渠	2,107,595	2,357,095	△ 249,500																			
ポンプ場	846,343	751,640	94,703																			
計	7,503,687	7,802,003	△ 298,316																			
<p>湖南中部処理区管理費</p>	<p>37,000 (3,815,246)</p> <p>繰上 37,000</p>	<p>湖南中部処理区の下水道施設を維持管理し、琵琶湖をはじめとする公共用水域の水質を保全し、県民の快適な住環境を実現する。</p> <p>1 湖南中部処理区管理費 37,000</p> <p>3,727,455 → 3,764,455</p> <p>再度の豪雨による施設被害を防止するため、下水道不明水発生箇所 の絞り込み調査を実施することに伴う増額</p>																				

オオバナミズキンバイ駆除の計画

環境・農水常任委員会 資料1-1
平成26年(2014年)10月6日
琵琶湖環境部自然環境保全課

		生育面積(m ²)	<新たなエリア>	<大規模生育エリア>	<小規模生育エリア>
平成26年度	H26当初面積	65,000 m ²		<p>55,000m² (1.5倍) →82,500m²</p>	<p>10,000m²</p>
	H26末(想定)増殖後面積	92,500 m ²		<p>駆除 82,500m²</p> <p>●可能な限り、多くの区域単位の根絶を目指す。 ・琵琶湖外来水生植物対策協議会が駆除 【当初予算+補正予算】 67,500m² ・国、漁協、ボランティアが駆除 15,000m²</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ帯等に小規模・分散 ・効果的・効率的な駆除が困難 ・他の植物と競合し、著しい拡大はないものと想定 ・H26年度 駆除法を確立
平成27年度	H27面積	10,000+a+b m ²	<p>・新たなエリアへの拡散・増殖 ・早期に把握し、増殖前に駆除</p> <p>駆除 a</p>	<p>(駆除した箇所は監視を行い、再生させない)</p>	<p>10,000m² b</p> <p>・H27年度 駆除を実施</p> <p>駆除10,000m² +b</p>
	H28面積	c+d m ²	<p>・小規模・分散的に再生(管理が可能な規模) ・必要に応じて予算化</p> <p>駆除</p>	<p>管理が可能な状態へ…</p> <p>↓</p> <p>根絶を目指す</p>	<p>(駆除した箇所は監視を行い、再生させない)</p>